

献 辞

人文社会科学研究科教授 内 田 奈芳美

田中恭子先生は、昭和52年3月に東京学芸大学教育学部を卒業後、昭和52年4月にお茶の水女子大学大学院人文科学研究科地理学専攻に進学、昭和55年3月修士課程を修了された。昭和56年4月同大学院人間文化研究科博士課程に進学されたが、昭和61年9月オハイオ州立大学大学院博士課程に入学し、平成4年3月にPh.D(地理学)を取得された。平成7年4月に埼玉大学経済学部に経済地理学担当の助教授として赴任し、平成18年10月に教授に昇任された。

田中先生は修士論文において東京の住宅地における農村的都市所有から都市的土地所有へという歴史的視点から実証的な分析を行い、そのユニークな成果を発表された。また、アメリカ留学を通して計量地理学・人口地理学を学ばれ、博士論文では日本の地域間所得格差と人口移動の変動の関連性を時系列分析によって実証された。埼玉大学に赴任されてからは、出生率や保育サービスの地域格差のテーマに関心を移され、東京圏の地域分析を始め、さらにそのテーマを国際的比較研究まで発展させ、教授資格申請論文を作成し、平成20年には『女性就業と保育の都市空間構造：スウェーデン、アメリカ、日本の国際比較』を上梓された。このように新規性のある地域分析を重ねられ地理学の発展に貢献された。

平成27年に刊行した『アメリカの金融危機と社会政策：地理学的アプローチ』（時潮社）においては、2008年のサブプライムローン危機にまつわる金融制度の変化と地域の地価変動との関連性を分析するとともに、貧困の女性化に関して住宅政策や他の社会政策に関する政治的文化に起因した地域差を考察された。さらに平成29年に刊行された著書では『グローバリゼーションの地理学』（時潮社）というタイトルで、アメリカにおけるラテンアメリカの対外政策を中心として、1980年代の「失われた10年」とIMF等の国際金融機関によって推進されたネオリベラル経済改革の功罪に関して論じた。このように学問的な関心を多岐に広げ、好奇心の旺盛さを示された。その後もアメリカの国内の政治・経済・社会の動向に着目し続け、特にアメリカのトランプ政権成立に関して政治的分極化とその地域的な現れに関心を寄せられた。

田中先生が平成7年に本校に着任された時には、経済学部は3学科制で、先生は「社会環境設計学科」に所属されて「経済地理学」を担当された。その後、現在の4メジャー制への移行に伴い、先生は「国際ビジネスと社会発展」メジャーの所属に変わられた。

田中先生は学部生や大学院生に対する教育面においても多大な貢献をされている。社会人教育を標榜してきた当学部・研究科において、夜間生の学生も含め社会人との交流のなかで、アカデミックな世界で体験できない現場の体験談を聞いて先生ご自身も刺激を受けながら、熱心に研究面での指導を果たされていた。さらに、学内行政においては社会環境設計学科長、また国際ビジネスと社会発展メジャー長として貢献され、学外では埼玉県戦略的環境影響技術委員会委員、埼玉県開発審査

会委員、見沼田圃公有地利活用推進事業評価委員会副委員長など数多くの地元自治体の委員会において委員としてご活躍された。

埼玉大学人文社会研究科経済系におけるこれまでの多大な貢献に対して改めて感謝を申し上げるとともに、これからも益々ご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。長い間ありがとうございました。